

## 環境設備 演習2

「得点できたかどうか」「○か×か」ではなく、問題文を読んだ時に、「その関連の知識が、頭の中にどう収納されているのか、フォーカスポイントはどこか」を簡単に**余白に描き出して**みてください

---

### ウラ模試1

[No.6] 日照・日射・採光に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 北緯 35 度の地点における南向き鉛直壁面の 1 日の可照時間は、冬至の日よりも、夏至の日の方が短い。
2. 西向き窓側に設置する縦型ルーバーは、一般に、日照・日射調整に有効である。
3. 一般的な透明板ガラスの分光透過率は、可視光線の波長域より赤外線の長波長域のほうが小さい。
4. 日射遮蔽係数は、3 mm厚の普通透明ガラスの日射遮蔽性能を基準として表した係数であり、その値が大きいほど日射熱取得が小さくなる。

[No.7] 昼光・照明に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. 反射面（均等拡散面である場合）の光束発散度は、照度と、反射率の積に比例する。
2. 白い背景のもとで黒い文字を読むような場合、対象と背景の輝度の対比が大きいほど視力が上がる。
3. 人工照明により全般照明を行う場合、照度の均斉度は、1/10 以上とすることが推奨されている。
4. 照度と色温度の関係において、一般に、低照度では色温度の低い光が好まれ、高照度では色温度の高い光が好まれる。

[No.8] 色彩に関する次の記述のうち、**最も不適当な**ものはどれか。

1. JIS の物体色における有彩色の系統色名は、一般に、基本色名に「有彩色の明度・彩度に関する修飾語」と「色相に関する修飾語」を付けて示す。
2. マンセル表色系において、「5G7/8 と表される色」より「5G8/6 と表される色」のほうが明度は低い。
3. XYZ 表色系における xy 色度図上においては、x の値が増大するほど赤が強くなり、y の値が増大するほど緑が強くなる傾向がある。
4. 建築空間において、小面積の高彩度色を大面積の低彩度色に対比させて用いると、一般に、アクセント効果が得られる。

[No.9] 音響に関する次の記述のうち、**最も不適當な**ものはどれか。

1. 透過率は、「壁へ入射する音のエネルギー」に対する「反射されなかった音のエネルギー」の割合であり、透過損失は、透過率の逆数を「dB」で表示した値である。
2. 施工性に優れるボード直張り工法(コンクリートにせっこうボードを接着剤で点付けする方法)は、せっこうボードを張り付けることによって壁体全体の面密度が高くなるにもかかわらず、一般に、遮音等級 D による評価は低下する。
3. 単層壁の遮音において、同一の材料の場合、壁の厚さが厚いほど、コインシデンス効果による遮音性能の低下は、より低い周波数域で発生する。
4. 多孔質吸音材料を剛壁に取り付ける場合、多孔質吸音材料と剛壁面との間の空気層を厚くすると、一般に、低音域の吸音率が高くなる。

[No.10] 音響に関する次の記述のうち、**最も不適當な**ものはどれか。

1. 音の強さのレベルを 20dB 下げるためには、音の強さを 1/100 にする。
2. 室の天井に吸音材料を新たに設置する場合、吸音材料の設置前と比べた設置後の音響変化として、室内で会話をするとき、音声の明瞭度は高くなる。
3. 音の回折は、音波の伝搬空間に障害物がある場合に、障害物の背後に音が回り込んで伝搬する現象であり、障害物の大きさよりも音の波長が大きいかほど回り込みやすい。
4. 自由音場において、無指向性点音源とみなせる騒音源から 50m 離れた位置における騒音レベルの値が 73dB の場合、100m 離れた位置における騒音レベルの値は約 70dB になる。